

フランス視察報告 5 パリ近郊の知的障害児通所施設について
——IME La Roseraie (IME ラ・ロゼライエ) ——



写真_Mengeot et associés Architecte: <https://www.mengeotetassocies.com/>

■視察の目的

海外では障害をもった子どもたちがどのような環境で暮らし支援されているのか。今回の視察先としてフランスを選択した理由は、マクロン大統領が、2020年の障害者に関する全国会議において国内の障害者支援を充実させることを約束し、いまが大きく変わろうとしている時期だからです。演説では毎年数百人もの障害を持った方々が他国に支援を求めて流出していることに触れ、国内で誰もが尊厳ある自由な生活を送れるようにすることを目標に掲げています。そのような中、フランスでどのような建物がつくられ、また運営されているのか、それを知ることを視察の目的としました。

■IME La Roseraie (IME ラ・ロゼライエ) の概要

IME ラ・ロゼライエは Avenir Apei (非営利の福祉運営団体) が運営する施設のひとつです。その概要は運営団体の HP に書かれています★01。

「ロズレリー医療教育研究所 (IME La Roseraie) は、重度の知的障害 (関連する障害の有無を問わない) をもつ 6 歳から 20 歳までの子ども・青年のために 40 名分の定員を有し、さらに自閉症または広汎性発達障害の子どものために 7 名分の定員を備えています。

（１）支援対象者（利用者）

IME は 6 歳から 20 歳までの子ども・若者を受け入れています。

（２）施設の運営について

本施設は年間 210 日開所しています。子どもたちは、毎日 9 時から 16 時まで受け入れられますが、水曜日のみ 9 時から 13 時までです。また、月に 1 回土曜日に、子どもたちとその家族を対象とした特別なプログラムが実施されます。

（３）提供内容（Prestations）

教育（Éducative）

教育活動は多岐にわたり、より高い自立性の獲得や新しい学びの発見を目的としています。市民としての生活を送るための支援も行われます。

- 適応スポーツ：IME の強みの一つで、2 名の教員が担当
- ウェルビーイング：感覚活動や音楽活動など
- 地域社会へのインクルージョンを目的とした連携活動：
児童館、図書館・メディアテーク、スポーツクラブ、劇場、美術館など
- 健康教育

ケア・治療（Soin）

支援内容は多様で、以下の専門職が担当します。

- 心理士 2 名
- 心理運動療法士 2 名
- 看護師 1 名
- アートセラピスト 1 名
- 音楽療法士 1 名

さらに、理学療法士および足病医（フットケア専門職）が介入し、ケア体制を補完しています。

余暇（Loisirs）

- 毎週水曜午後はレジャーセンターを利用可能
- 月曜と木曜の夕方には、IME の時間外に余暇活動やスポーツの機会が提供されます

社会支援（Sociales）

- ソーシャルワーカー（社会福祉担当）が、すべての家族と連携しながら支援を行います

コミュニケーション (Communication)

- 家族向けブログが設けられており、副施設長補佐が運営しています。

(4) 就学 (Scolarisation)

就学している子どもたちは、フランス国民教育省の教員による支援を受けます。教員は教育担当スタッフ（エデュカトリス）とペアで指導を行います。指導は、IME 内の「教育ユニット」において少人数グループで実施されるほか、外部ではモーリス・ベルトー小学校およびアマンディエ中学校でも行われます。

(5) 入所 (Admission)

IME に入所するためには、居住地域の自立支援窓口（pôle autonomie）を通じて、MDPH への申請書類を作成する必要があります。家族は施設見学に招かれ、その後、申請は待機リストに登録されます。」（★02）

★01 Avenir Apei の web サイト (<https://www.avenirapei.org/>) 内の I.M.E. La Roseaie の施設紹介は以下の URL。 <https://www.avenirapei.org/project/ime-la-roseaie-2/>

★02 Web ブラウザの翻訳機能による。



IME を目的に訪問しましたが、敷地内は広く複数の施設が建てられていました。目の前の趣きある建造物は管理棟として使われています。



案内板には、IME 以外にも ESAT (就労支援施設)、FAM (成人障害者入所施設・中程度)、MAS (成人障害者入所施設・より重度) 等が記載されています。

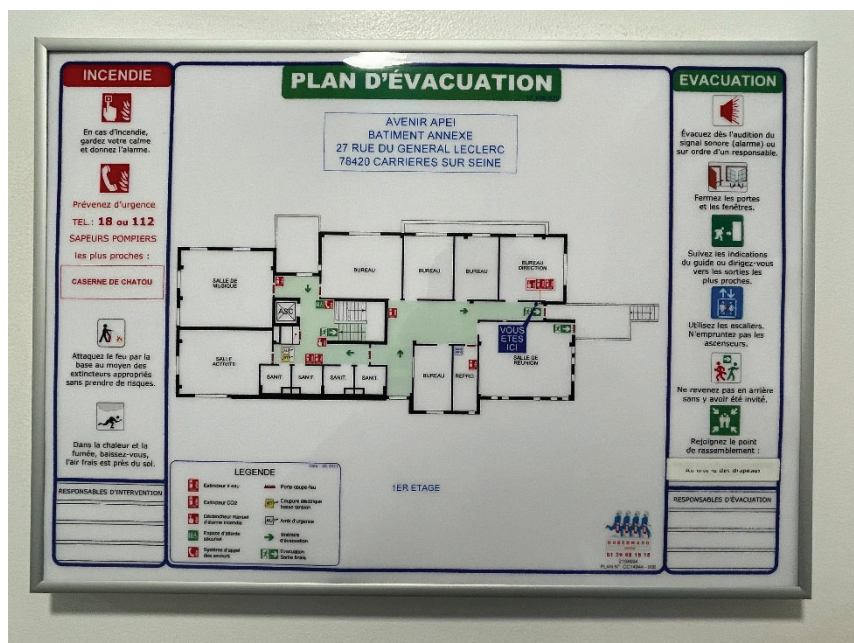


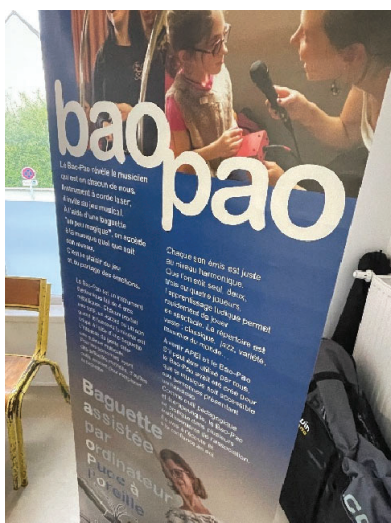
この建物を設計した Mingeot 氏に案内してもらいました (敷地内には他にも彼が手掛けた施設があるようです) (★03)。訪問する前に、写真上で金属パネルに見えていた外壁は、実際には木質パネルで、ここでもサステナビリティに配慮した建物になっていました。



管理部門中心の 2 階ですが、避難計画図のサインです。

写真右の階段から、管理部門にアプローチします。事務室が並び、会議室があります。中央の階段あたりを境に扉で利用者エリアと分けられています。このフロアの利用者エリアには音楽室、活動室が並んでいます。





音楽室には BAOPAO と呼ばれる電子音楽装置があり、それらを利用者の方が演奏されていました。端部から上下にレーザーが出ており、それをスティックで切るように動かすことで音が出ます。設定した楽曲に合わせて音階は自動的に調整されるので、うまく動作を繰り返すと音楽を演奏できる仕組みになっています。楽譜などは不要ですので、障害のある方でも小さな動きで音楽演奏ができるように設計されています。少し体験させていただきましたが、スティックをもって振るだけの動作なので感覚的に扱うことができました。ひとつの音楽をふたりで交互に演奏することもできますが、呼吸を合わせてうまくパスをつなげないといけません。うまくいかなくても楽しいのがよいところで、自己表現やコミュニケーションに効果が期待できるものになっていました。

★03 Mengeot et associés Architecte : <https://www.mengeotetassocies.com/>